

(福垣内議員)

Q 「宅福便」事業で、近所の助け合い・支え合いを。

A 今後、社会福祉協議会と共に、制度に関し研究していきたい。

(立花民生部長)



Q

近所での助け合い、支え合いを促進し、豊かな地域社会を目指す取り組みを町内で展開してはどうか。熊野社協が「縁結び役」となり、困り事を抱える人と、手助けする近所の住民とを結び付ける事業として考えられないか。

A

公的サービスだけでは対応出来ない様々なニーズを踏まえ、本町では平成16年度に社協内にボランティアセンターを開設し、公的サービスに当たらない日常生活の様々な依頼に無償ボランティアで対応してきた。有償ボランティアの仕組み作りについては、様々な利点もあることから、今後、社協と共に制度について研究していきたい。

(藤本議員)

Q 介護予防事業について問う。

A ミニデイホーム事業や体操教室などの各種教室を開催している。

(清代健康課長)



Q

介護予防の重要性にし、「虚弱な高齢者が介護状態になることを予防する事業や、要介護状態の重度化を防ぐ事業を実施し、予防介護の充実を図る」とあるが、どのような事業に取り組み、その効果はどうか。具体的な数値を問う。また、ミニデイホーム事業等への取り組みは、今後どう進めるのか。



平成18年3月に策定された計画

平成18年度事業実績

事業名	延べ参加者数
生きがいクラブ事業	1,696人
体操教室	426人
脳いきいき元気アップ教室	161人

A

事業内容として、町社協に委託しているミニデイホーム事業（高齢者同士の趣味活動、保健師等による健康相談を実施）のほか、町直営事業として、生きがいクラブ等の各種教室を開催している。効果としては、体操教室では、身体機能で8項目の評価を行い、19人中15人が複数の項目で改善があり、その他の事業については現在評価中である。各種教室等の延べ参加者数は、左記の表のとおりである。